



うめ もり たか ひと
梅森敬仁議員

安平町の今後の展望について 2

- ・ラピダス社対応の現状
- ・都市計画変更の必要性
- ・地域医療問題
- ・高齢者世帯への個別ごみ回収

昨年6月の一般質問から一年経過した現状の説明を求める

質問 ラピダス関連のニュースを毎日のように新聞・テレビで目にする。安平町の取り組み状況を説明願いたい。

答弁 安平町は工業用水、電力供給で大きく関わっています。これについては、必要に応じて地域説明会、個別説明を行っています。

近隣自治体との連携については、東胆振1市4町の東胆振定住自立圏、令和7年度の苫小牧地方総合開発期成会要望として国や北海道に対してラピダス関連要望を盛り込む予定です。

また、千歳・苫小牧地方拠点都市地域整備推進協議会において、今年度首長による対面での総会開催が8月22日に行われ、その中で情報交換等を行っていく予定です。個別・具体的な要望は、どこの町もしていないのが現状ですが、これから想定される大きな予算のお願いを、国・北海道に行

うために首長が中心になって要望活動を開始したところですが。

都市計画変更の必要性

質問 ラピダス社、ソフトバンクのデータセンターの開業が間近に、安平町の都市計画によって大きな影響を受けることが予想されるが、計画変更の必要性について説明願いたい。

答弁 安平町の都市計画は、昭和44年に苫小牧東部工業基地の用地交渉から始まり、翌45年に北海道の積極的な推進が図られ、現在の苫小牧圏都市計画区域として決定されました。その後3度の見直しが行われ、現在の安平町の都市計画区域となつていきます。

昭和49年当時の早来町総合開発基本計画書によると、想定人口は約2万9000人を想定しておりました。工業団地の部分で、早来北町工業団地売後の新たな工業用地としては、遠浅地区に苫東の工業用地があります。よって今のところ都

市計画の変更は必要ないものと考えています。

地域医療問題

質問 追分地区(あびら追分クリニック)と、早来地区(渡邊医院)に対する支援についての現状説明を願いたい。

答弁 令和5年度の実績は、あびら追分クリニックに2940万円、渡邊医院に2680万円と、同程度の金額補助をしております。

質問 地域間格差が無いようにしっかりと支えていると思うが、将来的にはより多くの支援が必要と思うが、その考えはあるのか。

答弁 地域医療をどう守っていくかについては毎年医療懇談会を開催し、ご要望・ご意見をいただき、適切に対応しております。

個別ごみ回収

質問 高齢者世帯への個別ごみ回収についての内容を説明願いたい。

答弁 ふれあい収集と言わ

れているもので、高齢者やしょうがい者等の世帯で自らがごみをステーションまで出すことが困難であり、同居する家族や他の方からごみ出しの協力を得ることができない町民を対象に、利用者宅に伺い収集することにより住民サービスの向上、あわせて声掛けや安否の確認をすることにより、高齢者やしょうがい者等の福祉の向上を図ることを目的としています。

○9月から試験的に実施予定です。
○早来大町が対象で、週1回自宅に伺い一括回収します。
○対象者については、広報などで周知予定です。

一般質問を終えて

安平町発展のために将来を見据えたスピード感のある施策対応が必要とされ、議員各自の活動力が試されていると感じた。



ないとう けいこ
内藤圭子議員

役場庁舎内の横断的取り組みの現状と今後について

質問 庁内の横断的取り組みと町民参加について具体的に伺います。まずはCFIに関する課は。

答弁 教育委員会。各課と連携し、年度当初にユニセフ日本型子どもにやさしい町CFIモデル構成要素10項目及びチェックリストで目標を掲げている。

質問 子どもが町の事を理解するための総合計画の子ども版はあるか。

答弁 制度づくりを進めているのが現状。

質問 どのようなメンバーか。

答弁 他の課の担当も含めてもう少し広い視点で作れる体制で行いたい。子どもたちのプロジェクトチームとか委員会を加えられたらと考える。

質問 そこに町民の参加は。

答弁 公募による考え方でルールを作りたい。

質問 DXの担当課は。

答弁 総務課情報グループ。
質問 どのような組織や協議会があるか。

答弁 計画案の段階で安平町行政改革推進委員会で協

議したり未来創生委員会で検討している。パブリックコメントも実施している。担当部署とDX推進のためのワーキンググループを設置する。

以下、他の事業についてまとめ答弁します。あびら教育プランについては、教育委員会が調整や伴走をしている。担当は学校教育。オーガニックビレッジ宣言については産業振興課が担当で、緑の食糧戦略の目標の1つに有機農業産地づくり推進事業があり、安平町は町づくりに活かしていくこととして宣言をした。令和9年度までに10戸の有機農家と10haの有機の拡大を目標にしている。ゼロカーボンシティ宣言は、税務住民課生活環境グループが担当。ゼロカーボンシティ推進協議会設立。協議会には政策推進課も参加。ほか商工会会長、誘致企業会会長、各連合自治会会長、一般町民で構成。

質問 施策実現のための業務連携はありますか。

答弁 DX推進のための協

定を株式会社電通北海道、株式会社電通国際情報サービスと三者で包括連携協定を行っている。スマートワーク推進プロジェクト連携協定も安平商工会、株式会社あわせ、株式会社電通北海道、株式会社FundingBase、WHITET株式会社、みらい株式会社、株式会社LIFULと締結した。CFCIに

関してはユニセフ。オーガニック宣言についての事業主体は安平町有機農業推進協議会で、事業提携ではない。

ゼロカーボン宣言推進業務提携はエイコーエナジオ株式会社とゼロカーボンシティ実現の連携協定、株式会社北海道銀行とゼロカーボン推進に関する包括連携協定、エネチェンジ株式会社とEV普通充電設備の普及の連携協定、株式会社DGネットワークとゼロカーボンシティ実現に関する連携協定の4つがある。

質問 業務委託は。

答弁 DX推進に関してはこれから契約を締結する予定。
質問 施策に町民をどのように巻き込みますか。

答弁 DX推進に関してアンケートや事業に参加した町民の声を参考に反映させながら進めたい。CFCIに関しては、子ども基本条例制定。生涯学習計画策定には公募を。オーガニックビレッジ宣言では有機農産物消費拡大のため町民参加型の啓蒙イベントを取り組んでいる。ゼロカーボン宣言推進員として地域おこし協力隊を採用し、ゼロカーボン理解促進の活動を予定している。

一般質問を終えて

反省の多い一般質問でした。町民の皆さんの積極的な参加が、私たちの住みよい街になる近道です。協議会の委員等、公募に手を挙げて声を届けてください。



く どうしゅういち
工藤秀一議員

子育て応援の社会を築くために 有害鳥獣対策、クマ出没時マニュアル アピアランスケア（外観装具）助成 公共施設窓口に補聴器設置

子育て応援 朝の小1の壁

質問 小学校開門が親の出勤より遅くなった。保育園の時は良かったが、小1になり悩む親多数。背景に教員の働き方改革。現状は。

答弁 本町は取り組み準備として児童館を開放。しかし、結局教員が早く来て対応している実態。

質問 開門を待つ児童がいる。子どもを一人残し戸締りさせるのは心苦しい「どちらか転職するしかない」と悩む親。戸締りして通学する子どもの把握は。

答弁 一定数、存在を認識。

質問 児童館をどのくらい利用しているか。

答弁 親が千歳、苫小牧に早朝に出るのでこの制度が浸透していくと考えている。

質問 豊中市は開門を子ども園に合わせ、民間委託で見守りを配置しているが。

答弁 地域の居場所として学校を使っていくという新しい形が出来ているので、教育機能だけでなく、ほかの機能を加えることが出来るのか、調査研究に値すると受け止めている。

子ども誰でも通園制度

質問 親の就労要件を問わず保育所を利用できる制度を国は26年4月から実施。子育てをサポートする目的。子ども園の課題は。

答弁 保育士の雇用を安定的にできるように支援検討。

ヤングケアラー支援

質問 国では支援体制構築に取り組みを促す補助制度、相談窓口設置を推進。しかし、支援を実施する自治体が増えているが、ばらつきが課題。町の支援対策は。

答弁 実態把握と関係各所と連携・支援について、家庭の事情を把握し対応する専門支援員不在。今年度、子ども家庭センター設置の協議を行うが、専門支援員の設置を含め進めたい。

給食費の無償化

質問 経済的に左右されず誰もが安心して食べられるよう今進めるべきと思うが。

答弁 子育て支援、定住化

策の目的としても、取り組む判断には至っていない。

質問 全国調査では6年前76自治体に対し、昨年547自治体に広がっているが。

答弁 食材の高騰部分を負担し、無償化に関し全く考えていないわけではない。

有害鳥獣対策について

質問 5月、6月とクマが出没。道予算としてヒグマ対策推進費拡充。ヒグマおよび有害鳥獣強化の対策推進について取り組みを伺う。

答弁 現在まで町内全域に鹿柵設置。捕獲者には奨励金等により捕獲意欲の増進。狩猟免許申請手数料全額助成、くくり罠の購入費助成等。アライグマも箱罠を設置し捕獲等これら取り組みを継続。道からの予算については事業の中身等複雑な面があり振興局と協議中。

質問 クマ出没、遭遇した場合を含めてのマニュアルを住民と情報共有を。ドローンを活用し、追跡したり即伝える方法は。

答弁 広報紙やホームページで注意喚起。ドローン活用はクマの移動速度が早くて難しい。ハンターの経験・見解を踏まえ検討。

がん治療などの外観装具

質問 がん治療などに伴う外観に悩む患者の医療ウィッグ、乳房補正具等購入費用に対する助成について。

答弁 札幌、函館、伊達等開始済み。保険適用外のため精神的・経済的負担を軽減する必要は認める。町の財政から近々の実施は難しいが実現に向け努力する。

補聴器について

質問 耳周辺の軟骨を通じ音が聞こえる軟骨伝導イヤホンを窓口に設置する自治体、金融機関、病院が増えている。穴や凹凸がなく消毒しやすく不特定多数の利用の窓口に設置の考えは。

答弁 庁舎バリアフリー化として標準装備になりうる。先進地の事例を参考に検討。



みうら えみこ
三浦恵美子議員

安平町の財政について

町民の命とくらしを守るお金の使い方を求めて
災害への備え、借入金の返済、今後の方向性を問う

財政の透明性確保の観点から、町民に分かりやすい資料の公開時期は昨年(17年)経過

質問 安平町の財務諸表と財務4表の公表について進捗は。

答弁 財務4表に関して令和3年度まで公表済み。令和4年度分は作成業務委託し来年7月公表予定。

質問 昨年6月定例会の答弁では今年度中に公表するとの事だったが、現在も公表していない理由(安平町の財務諸表は平成28年から未公表)と公表時期は。(財政の透明性確保のため公表が必要と総務省通達あり)

答弁 昨年財務4表他、財務諸表を出すに答弁した政策推進課へもう一度確認を取り、改めて公表する形を取る。(今年度中に進める)

早来地区小中学校を統廃合し、どれだけ経費削減になったか、今後、旧早来中学校解体と建設費の返済も計画を立てているか

質問 早来学園の運営経費について、開校前(早来地

区小中4校)の時と比較は、建設費用の償還が始まることも踏まえて。

答弁 交付税は令和4年と令和5年比較で43万1千円増加。令和5年度以降減少。歳出は経常経費で約1千600万円以上減少。

質問 交付税が減少し建設費用の償還が始まり旧早来中学校の解体も必要な中、今後の見通しと計画は。

答弁 中学校の解体時期は未定。建設費の償還は始まるが、償還表を踏まえて財政運営を行っていく。

町民の命と財産を守るため、財政上の災害の備えの方向性は

質問 備荒資金組合の運用の目的と財政調整基金の機能(役割)について。

答弁 備荒資金組合運用目的は災害への備えの積み立て。財政調整基金の役割は、災害対策の財源、他緊急時等財政需要への対応のため。
質問 余剰金が出た時は災害の備えとして、利率(配分率1%)が良い備荒資金組合へ積むことが望ましい

と思うが認識は。(財政調整基金に優先に積むという昨年の答弁を修正するか)

答弁 限度額まで余剰金が出た時に全体的な他の基金のバランスを見ながら災害への備えとして備荒資金組合へ積む考え。

質問 車両譲渡事業(公用車2台、町長公用車1台)について事業目的(防災・災害復旧)に沿った運用を行っているか。

答弁 町長公用車も含め災害発災時には被災地を回り活用した。災害対策のため活用していく。

町民の生命維持のため重要な経常経費の現状と今後は福祉の費用(扶助費)と住民サービスは確保されるか

質問 経常経費の収支について、令和6年度当初予算と後期財政計画の見込みを比較して現在の状況は。

答弁 後期財政計画は令和6年度収支率91%。令和6年度当初予算収支率91・5%。基金の見直し令和5年度14億1500万円、令和

8年度8億2000万円。財政上楽観できない数字。基金積み増し努力する。

質問 経常収支の余剰金について、計画は3億円程度が令和6年度当初予算2400万円とかなり減ったが、どのように修正するか。

答弁 6月18日現在整理、令和4年度余剰金財政調整基金で7500万円。当初より多く出た。

質問 1年以内に償還(返済)予定の3億1000万円をどう捻出するか。(余剰金では全て払えないが基金を取り崩すか)

答弁 財政計画の数字をできる限り守り、複数ある施設の統廃合。人件費等も改革し、地方創生に充てる。

質問 財政破綻を避けた上で、更に扶助費・住民サービス確保のための方向性は。安定した財政運営とは。

答弁 有利な起債(借入)活用。支援が必要な方々へできる限り届くよう努力。大きな事業は年度をまたいで先延ばしするなど、工夫しながら進めていく。

一般質問

(内容は議員本人が要約しています)



おがさわらなほし
小笠原直治議員

地域医療提供体制維持費交付金要綱の一部改正は、渡邊医院の新築開院の借入金返済の為の恣意的なものではないか

借入金返済を、町民に返済金を払わせる無責任な医療法人

質問 本要綱の一部改正は、何度行われたのか。

答弁 初期医療提供をする町内医療機関における医師等の確保。かかりつけ医の定着等に重点を置いた地域医療提供体制構築と地域住民の保健衛生の向上、地域医療の確保を図る為、各医療機関等の安定した経営及び運営に資する経費に対して、予算3000万円の範囲内で交付するもので、一部改正は4回行っています。

質問 渡邊医院・追分クリニクスの今年度予算配分は、追分クリニクスは、看護師等雇用確保は対象外。かかりつけ医確保850万円。専門医確保530万円。医療機器購入360万円で、約1740万円。
渡邊医院は、看護師等雇用確保600万円。かかりつけ医確保600万円。専門医確保なし。地域医療提供体制維持費(借入金返済金)1800万円で計3000万円。

質問 要綱の一部改正は、予算審議前に、議会に説明すべきではないか。

答弁 重要な要綱、一部改正は、全員協議会で説明できよう改善を図ります。

町民は、いつまで借入金返済金を払い続けるのか

質問 安定した経営や雇用が見込めない医療機関は、常識では経営破綻に陥っていると言う事ではないか。

答弁 経営破綻との認識はしていない。
質問 地域医療提供体制維持費補助交付金は、当該医療機関が安定した医療提供体制を守られないのでは。その一番の要因は借入金返済が大きな負担で、重荷になっているのではないか。

答弁 医院の外構工事と建物以外の借入れがされている。運営経費ではなく、新築開院の借入金の返済金が必要だと認識している。
質問 渡邊医院は昨年の4月3日にリニューアル開院をしました。町として、施設整備補助金に基づいて3000万円。更に2000万円。計5000万円の補

助金交付には、事業内容・経費を明記した書類の提出が必要ですから、借入金返済計画は確認されているはずですが、恐らく今年の春頃に資金繰りの相談があつて、4月30日の第4回臨時議会一般会計補正予算に3000万円が提案されたのではないかと考えられます。本要綱の上限額3000万円から当初交付した1200万円を引いた1800万円を、これから毎年、町民が払い続けるのか。

答弁 要綱の上限は3000万円、看護師確保5名で600万円、かかりつけ医確保で、常勤医師1名、600万円を交付している。残り1800万円が借入金返済金になり、補助金として出していく事になります。

資産を含め、借入金返済計画を提出すべき

質問 医療法人が新築開院する時は、自己資金・借入金返済計画を明確にして行うのが常識であります。地

域医療を守るといふ大義名分で、安易に町民に負担をかける姿勢は、本当に地域医療を任される医院なのか。借入金返済金措置は、医療機関だけの特権と思つているのか。町民・商工・農業者には、やり繰りして生活している方が大勢います。借入金返済計画を議会に示していただきたい。

答弁 地域医療をどう守るのか、町として議会にきちんと説明する場を設けながら進めて参りたい。
野良猫対策の不明確な30万円の根拠は
質問 野良猫に困っている町民への対応は。また、猫7匹、30万円の予算計上の根拠は。

答弁 事務住民課の生活環境グループが窓口です。NPO法人から保護猫活動についてお願いがあり、予算30万円を計上した。具体的な対策を講じた事はない。

☆議会・委員会活動
(4月から6月まで)

議会広報特別委員会

4月18日

第3回臨時議会

4月30日

第4回臨時議会及び全員協

議会及び議会改革調査特別

委員会

5月9日

議会運営委員会及び議会改

革調査特別委員会

6月13日

第5回定例議会

6月13日

議会運営委員会

6月19日～20日

6月20日

議会だよりの最新号は役場総合庁舎（議会事務局）と総合支所及び公民館に置いています。また、町の公式ホームページには過去（第59号以降）のPDFデータを掲載しています。

過去の議会だよりの閲覧は、こちらの二次元バーコードをお使いください。



過去の議会録画映像と会議録の視聴ができます

録画映像を見る



会議録を読む



※会議録は令和4年9月分以降から開始しました

【議会事務局からのお願い】

議長宛の文書や案内状などは、議長公務日程調整のため、議会事務局に送付下さいますようお願いいたします。

議会中継の視聴方法について

議会開会中は、次の2通りの方法でご自宅でライブ中継を視聴できます。

(1) ご自宅のテレビから



地上デジタル放送
11チャンネル
あびらチャンネル
で視聴できます。

あびらチャンネルは
安平町内限定のエリア放送です

(2) インターネットから（安平町ホームページから）



※スマートフォンから視聴する場合（表示が異なります）



あ と が き

6月26日に令和6年度胆振地方消防訓練大会が安平町ときわ公園で開催されました。12の市と町から21チームの消防団が参加して、ポンプ車操法及び小型ポンプ操法の2つの技法で競いました。安平消防団は、ポンプ車操法の部で優良賞を受賞、小型ポンプ操法では見事準優勝という素晴らしい成績を収めました。大会に参加した団員の方だけではなく、指導や支援に当たった方々は、早朝や夜、休日なども利用してこの大会に臨んだと聞きました。大会だけではなく、日頃から訓練や火災予防などを行って町民の方々の生命・財産を守るための姿には感謝の念に耐えませぬ。今回の大会を拝見して、改めて消防団の大切さを思い知る一日となりました。

議会広報特別委員会

委員 箱崎 英輔